

## 本時のねらい

レイアップシュートを動画で確認し、自己の課題に気付いて改善できるように練習に取り組む。

## 本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

自分の動きを動画で確認して改善点を挙げることにより、さらなる技術面の向上を図る。

## 活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タブレット端末 (iPad)    ・ロイロノート    ・カメラ

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (20分)	○準備運動 (ランニング、ラジオ体操、補強運動) ○バスケットボールを使用した基礎ドリル	
展開 (23分)	○iPadで本時の流れの説明 ○レイアップシュートの練習 ○ペアで1台の端末を使用し、お互いのレイアップシュートの動画を撮影し、自分たちの動きを確認する。(撮影は2回ずつ) 確認したあと、再度レイアップシュートの練習に取り組む。 ○撮った動画をペアの人に送り、自分のiPadに保存する	・ロイロノートで画面共有しながら手本となる動画のポイントを説明する。(生徒にも同じ動画を配信) ・自分の動きを見ることによって、手本となる動きに近づくように意識して練習に取り組むことができる。
まとめ (7分)	○ロイロノートで配信した学習カードをまとめる	・ロイロノート上で記入することにより、自分の動画を学習カードに貼り付けることができる。また、記録や指導に生かす評価として残しておくことができる。

## 1人1台端末を活用した活動の様子



ロイロノートで画面共有を行い、レイアップシュートのポイントの説明を聞いている場面



ペアで動画を取り合っている様子



自分の動きを確認して、改善点を書き出している様子

## 児童生徒の反応や変容

- ・自分の中の動きのイメージと、実際の動きを動画撮影して確認することによって、イメージが湧きやすく、技能向上に繋がっていた。
- ・運動への苦手意識が強い生徒も、動画撮影し自分の動きを客観的に見ることによって、「もっと見本の動きに近づきたい」と考えながら練習に取り組んでいた。
- ・学習カードで改善点を挙げさせることによって、何回も動画を確認し、考える様子が見られた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・自分の動きを動画で見ることによって視覚的に理解し、技能向上につなげることができる。
- ・体育館など、プロジェクターが常備されていない場所でも画面共有を行うことで、円滑に授業を進めることができる。
- ・授業後に生徒が提出した学習カードにアドバイスを記入し、返却することによって、その場でアドバイスができなかった生徒の様子や進捗状況も把握することができる。
- ・体育の授業ではタブレットを使用すると生徒が動画撮影に集中してしまい、実技の活動時間が短くなってしまったことがあった。改善のために、タブレット端末をグループやペアに1台とし、スロー再生が可能なアプリケーションを使用し動きを確認するように指導を行った。